下手の横好き

―將棋いろいろ―

南部修太郎

青空文庫

＝1＝町内の好敵手

住み馴れてやがて三十年、今では僕も町内一二の古顔になつてしまつたが、麻布區新龍土町といふと、うしろに歩兵第三聯隊のモダアン兵營を控えた戸數六七十の一區劃だが、ロオマ法王使節館、土耳古公使館、佛蘭土大使館武官館以下西洋人の住宅が非常に多い外になかなか特色のある住人を持つてゐる。公爵、男爵、老政客、天文學博士、實業家など、藝苑では一時的に中村時藏や千葉早智子なども住んでゐたし、シロタやトドロヰッチ夫人のピアノ彈奏を立ち聽きした事もあるし、所謂見越の

松風の淑女も幾人か住むといふやうな物靜かな屋敷町でもある。さういふ町内に僕の將棋の好敵手がゐる。改まつて紹介すれば、新美術院會員、國畫會總帥の梅原龍三郎畫伯その人だが、なアにお互に負けず嫌ひで相當意地つ張りでもある二人。將棋では何糞つと力み返つて遠慮なしに負かしたり負かされたりする事既に五六年にもならうか？

この夏もお互に旅先や何かで久しく顔を合せなかつた二人、さて新秋になると、向うは熱海で勉強して大に強くなつたと自信を持ち、僕は僕で名人決定戰の觀戰記を書き棋力に相當加ふるものありとうぬ惚れて、共に張り切つてゐるのだからたまらない。僕先づ出陣に及んで何と四勝一敗、すつかり得意になつてゐると、

つい二三日前には口惜しさの腹癒やさんずと向うから來戰に及んで何と三敗一勝、物の見事に復讐されてしまつた。その度毎に明暗、悲喜こもごも至る二人の顏附たるやお察しに任せる次第だ。

「何だか長閑ね、平安朝みたい……」

と、いつだつたか僕の女房が言つた。

「何を？生意氣言ふな。」

と、僕早速呶鳴りはしたものの、口邊には微苦笑を抑へきれぬ始末。實は二人の對局振を如何にも評し得てゐるのだ。とにかくあんまり強くもなく、かと言つてまた格別恥かしいほど弱い譯でもなく、棋風も先づ正正堂堂として至極落ち着き拂つた方、正に兄たり難く弟たり難しの組合せだ。それが大概一局に

一時間乃至一時間半、一二度は三時間餘にも及んだことがあるのだが、さう鋭くもなく敢へて奇手妙策も弄せず靜かに穩かにもみ合つてゐる光景たるやたしかに「櫻かざして」の感なくもない。

「町内にどうも早お似合ひの相手が見つかつたもんだなア……」

と、對局しながらフト變にをかしくなつて、そんな感慨を洩らした事もある。だが、無論お互に胸中密に「なアに己の方が……」と思つてゐる事は、それが將棋をたしなむ者の癖で御多分に洩れざる所。然し、三四年前に半年あまり一緒に萩原淳七段の高弟（？）となつて大いに切磋琢磨したのだが、二人とも一向棋力が進歩しない所まで似てゐるのだから、聊か好敵手過ぎる嫌ひもある。尤も、あれで若しどつちかが斷然強くでもなつた

としたら、恐らく進まぬ方は憤然町内を蹴つて去つたかも知れない。桑原、桑原！

＝2＝痛まし専門棋士

名人決定戦の金、花田兩八段の對局、相踵いで大崎、木見兩八段の對局を觀戦して、僕は専門的な棋戦の如何に苦しく辛きものであるかをつくづく思ひやつた。そして、その立場には寧ろ痛ましさを感じた。とにかくその初めは切實な人間生活の慰樂として遊びとして創り成された將棋に違ひないと思ふが、それを慰樂や遊びの域を遙に越えて、正に骨味を削るが如くあれ

ほど必死に眞劍に爭ひ戰はなければならないとは！　さう言えば、昔爭ひ將棋に敗れて血を吐いて死んだ若い棋士があつた。それは恐らく戰ふ者の誇と名譽にかけて、または男の意地にかけてであつたらう。が、現在では對局の陰に實際的な生活問題まで含まれて來たらしい。

閑中の余技として樂しむ僕達の棋戰でさへ負けては樂しからず、惡手を指したり讀みの不足で詰みを逸したりした時など、寢床にはひつても盤面が腦裡に浮んで來て口惜しさに眠れぬ思ひのする事しばしばだが、敗れたる專門棋士の胸中や果して如何に？　どんな勝負事も背後に生活問題が裏附けるとなれば一そう尖鋭化してくる事は明かだが、それにしても將棋がああまでも

戰はなければならぬものになつて來た事は正しく時代の推移の然らしむる所であらう。爭ひ將棋に敗れて血を吐いて死ぬなどは一種の悲壯美を感じさせるが、迂濶に死ぬ事も出來ないであらう現代の專門棋士は平凡に、而もジリリと心にかぶさつてくる生活問題の重壓を一方に擔ひながら、寧ろより悲壯な戰ひを戰つてゐると見られぬ事はない。

＝3＝老齡と棋力

今は隱退してゐる小菅劍之助老八段が關根金次郎名人に向つて、年をとると落手があり勝ちになる。落手があるやうでは名手

とは言へぬ。假りにも名人上手とうたはれた者は年をとつてつまらぬ棋譜を殘すべきでない――と自重を切望したといふ。これは或る意味で悲壯な、而も甚だ味ふべき詞だ。僕は今も壯者に伍していさぎよく戰ふ關根名人の磊落性を寧ろ愛敬し、一方自負しつつ出でざる坂田三吉八段に或る憐憫さへ感じてゐる者だが、將棋だけは若い者には勝てないものらしい。老齡と棋力の衰頽と、これは悲しい事に如何ともし難いものだからだ。僕は出でて戰はざる如き棋士は如何なる棋力ありとも到底尊敬出來ぬが、その意味では小菅翁の詞に同感し能はぬでもない。が、畢竟それもまた名人上手とかいふ風な古來の形式主義が當然作り出す型に捉はれた觀念と見られぬ事もない。從つて、今度の

實力主義の名人制度は、たとへ幾分えげつない感じはあつても、たしかに棋界の進歩といふべきであらう。何も勝負だ、戰ひだ。堂堂と遠慮なく爭ひ勝つべく、弱き者敗るる者がドシドシ蹴落されて行く事に感傷的な憐憫など注ぐべきでもあるまい。幸運悲運のけじめは勿論あるとしても、勝つ者が勝つには必ず當然の理由がある。蹴落されて憐憫を待つ如き心掛なら、初めから如何なる勝負にも戰ひにも出る資格はない譯だ。とにかく舊式の名人制打破は甚だいい。ただ問題は棋界に功勞があり、而も棋力衰へた老棋士の老後の生活に對して同時に何等かの考慮が拂はるべきである事を僕は切言したい。

青空文庫情報

底本：「ホーム・ライフ　昭和十年十二月號」大阪毎日新聞社
　　1935（昭和10）年12月1日発行
入力：小林　徹
校正：鈴木厚司
2008年11月11日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

下手の横好き
―將棋いろいろ―

２０２０年　７月１３日　初版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　南部修太郎
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　http://aozora.xisang.top/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/